

「二十一世紀に 生き生き生きる
経営基盤創り。」

ありがとう



●4月例会ご報告
●討議会の報告

2015.4
VOL.42

発行責任者／山田 淳二 西岡 伸悟

4月例会ご報告

2015年4月15日(水)
於：RCC文化センター

経営理念を浸透させ人財育成にもつながる朝礼とは!?

山陽製紙株式会社 専務取締役 原田千秋 氏
(日創研経営研究会 本部 ありがとう経営推進・実践委員会レクチャー)

「ありがとう経営とは人を差別化する経営なのです」と、冒頭から原田千秋氏は切り出した。氏曰く、差別化とは人が明るく元気に育っていく環境、社風づくり。社員が自分で考え、行動し、提案するポジティブな思考を育てていく経営なのだ。

広島で生まれ育った原田氏は結婚により創業87年の山陽製紙株式会社の経営に携わることになる。「企業は生き物であり、生き残っていくためにはさまざまな危機を乗り越える必要があるのです」氏の言葉の裏には、山陽製紙が乗り越えてきた苦難の歴史がある。広島に本社があったときは原爆で工場が壊滅状態、大阪に移転後不渡りに巻き込まれ連鎖倒産。オイルショック、リーマンショックとその社歴には光だけではなく影も刻み込まれている。原田氏は自社の50周年記念パーティーで歴史を振り返り、未来ビジョンを描こうとしてはたと立ち止まった。50年先のビジョンが描けないことに非常に強い危機感を抱く。折しも経営理念を刷新したばかりだった。経営理念を語ることが、とりもなおさず自社の将来ビジョンを語ることであると気付き、理念「私たちは紙創りを通してお客様と喜びを共有し、環境に配慮した循環型社会に貢献します」を役員、幹部、そして社員に浸透させるために奮闘していくことになる。

講演中、ふいに原田氏は会場に問いかけた。「皆さんは、なぜ経営理念が大切なのだと思われますか？」シンプルでありながら深遠な問いかけに、同じテーブルに座っていた私たちはグループディスカッションをはじめた。さまざまな意見が飛び交う中、原田氏はやわらかく語った。「理念を浸透させるのは時間がかかるのです。わが社では『理念と経営』『13の徳目』をツールとして使っています。特にコーチング型朝礼の『13の徳目』の活用は質問を通じて思考を助け、自分自身で気付き行動できる社員に育てていくことができ社内が活性化してきました」早速会場でも『13の徳目』を使って各グループで模擬朝礼を実施していった。月間テーマの唱和、発表、要約を傾聴していくことで互いの存在を承認し尊重し、みるみるうちにグループの一体感が生まれてきたのは圧巻。朝礼とはこんなに意味深いものだったのだと身をもって体験した。「毎朝10分の朝礼を重ねていくと年間43時間になります。これは人財育成に



費やす時間なのです。ここまで育成に時間がかけられるのは中小企業だからこそ。経営理念、独自性のある技術、ネットワークの土壌に根ざした企業しか成功のチャンスはやってこないのです。会社の経営理念を実践していくのは成長した社員なのです」熱く私たちにエールを送ってくださいました。

人財育成の真髄に触れることができた4月例会は、会員51名オブザーバー88名計139名の出席をいただき熱狂と興奮が渦巻く中、閉会した。

広報副委員長 村井由香 (㈱キャピタルコーポレーション)

討議会の報告 4月9日(木)



今回は会員30名オブザーバー7名の参加で行いました。少しずつ人数も増えています。山田会長と、鍋島拡委員長が同じテーブルで特に盛り上がっていました。参加して、あなたの考えを聞かせてください。そして人の意見を参考にしてください。本を読んでなくても何とかなります。まずは参加してください。 理念副委員長 細土

討議会の日程：5月12日(火) 19時より